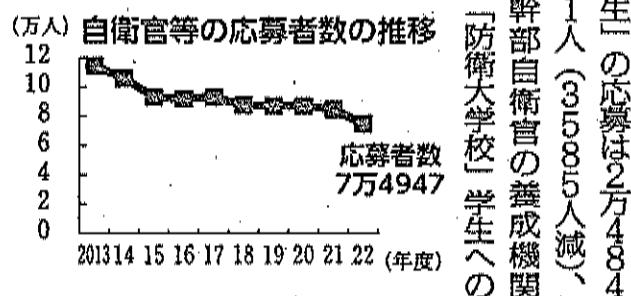


自衛官応募1万人近く減 22年度

2023年版防衛白書によると、22年度の「自衛官等の応募者数」は7万4947人で、前年度比9735人減と1万人近くも大幅に落ち込みました。8万人を割り込んだのは、過去10年間で初めてです。



8万人割れ 過去10年間で初めて

他にも、「一般幹部候補生」が702人減、「防衛医科大学校看護学科学生」が235人減、「航空学生」が182人減と落ち込みました。採用者は1万1914人で、前年度比1226人減となりました。現員数や充足率も減少。自衛隊の定員24万7千人に対し、現員は22万7843人(23年3月31日現在)などとなりました。充足率は92%で、1割近く定員に足りていません。特に、現場の最前線を担う「士」(兵士)の充足率は、75%などとまっています。

少子化に加え、岸田政権による大軍拡に伴い武力行使が現実感を増していることが背景にあるとみられます。相次ぐハラスメント問題も応募者減少の要因の一つだと指摘されています。

「自衛官候補生」の応募者数で、4438人減の2万3834人にとどまりました。「一般曹候補